

【参考資料】

感染拡大や大規模検査につながった具体的事例について(令和4年2月17日更新)

◇いわゆる「第6波」において、県内の学校教育の場面で実際に発生した主な事例についてまとめました。各学校等で、感染拡大防止の取組の参考としてください。

	概要	望ましい対応
事例1	屋内での部活動において、マスクなしで発声を伴う活動を行った。	可能な場面では不織布マスク着用を徹底。 マスク着用時においても、近距離での発声はリスクの高い活動と認識し、感染状況や衛生管理マニュアルの行動基準を踏まえて実施の適否を検討する。
事例2	発熱等の症状があるにもかかわらず、病院受診や学校に正しく報告せずに、登校した(部活動の大会に参加した、試験に参加した)。	体調に異変があるときは学校・部活動等を休む ことを徹底、早期の受診。 大会参加時の健康観察を徹底 し、体調に異変があるときは顧問に申告するよう指導を徹底。異変が認められた場合は欠場し、医療機関を受診する。
事例3	屋内において激しい呼吸を伴う運動を行った(マスクなし)。	運動時は身体へのリスクを考慮してマスクの着用は必要ないが、 感染状況によっては、可能な限り屋外で実施することや、屋内で実施する場合は特に呼吸が激しくなるような運動を避ける等を検討する。
事例4	授業中にマスクを外して指導を行った。	不織布マスク着用の徹底。
事例5	PCR検査を受検していることを学校に報告せず登校、その後陽性が判明。	濃厚接触者となった場合やPCR検査の受検及び結果について 学校への報告を徹底。
事例6	陽性になったことを学校に報告せず、在籍する学級の他の生徒は通常どおり登校した。	濃厚接触者となった場合やPCR検査の受検及び結果について 学校への報告を徹底。
事例7	感染が拡大している地域・時期において、友人同士で大人数の会食、宿泊を行った。	「県民のみなさまへの要請」や各種通知を参照し、 学校外においても1人ひとりが自覚ある適切な行動をとること。
事例8	部室等の換気が悪い場所において長時間マスクなしで会話、食事。	不織布マスク着用の徹底。部活動前後での集団での飲食など部活動に付随する場面でも対策を徹底し、部活動終了後は速やかに帰宅する。
事例9	部活動の帰りに複数人で飲食。	会食は「県民のみなさまへの要請」を踏まえて適切な行動をとること。 部活動前後での集団での飲食など部活動に付随する場面でも対策を徹底し、部活動終了後は速やかに帰宅する。
事例10	日常的に、マスクなしで友人と長時間の会話	不織布マスク着用の徹底。